

豊見城村史だより

第6号 2001・3・30



字高安の籠ゴウ祭(2000年)

豊見城村教育委員会 文化課

沖縄県豊見城村字伊良波392番地

TEL (098) 856-3671・FAX. (098) 856-8044

豊見城村史だより第6号もくじ

| | |
|------------------------------|----|
| はじめに..... | 1 |
| 一、豊見城村字高安の概況..... | 2 |
| 1.位置と環境 2.旧家・門中 3.聖地 4.年中行事 | |
| 二、龕と龕ゴウ祭について..... | 6 |
| 1.龕とは 2.龕ゴウ祭 3.豊見城村字高安の龕 | |
| 三、豊見城村字高安の龕ゴウ祭観察記録..... | 11 |
| はじめに 1.ティンダティウグン | |
| 2.龕屋・シーシヌメーの清掃及びコーヌユエーのリハーサル | |
| 3.前日のウガミ 4.龕ゴウ祭 | |
| 豊見城村史編纂室・文化課業務日誌..... | 35 |

はじめに

かつて沖縄の野辺送りには、僧侶や遺族、会葬者の葬列のなかに経文を書いた旗や真白な提灯、そして赤い屋形の輿こしが見られた。この輿こしは棺を運ぶための葬具で、「龕ガン」と呼ばれた。鮮やかな赤い屋形の龕は遠くからでも人目を引いたという。こうした葬列の光景は戦後の一時期まで沖縄の各地で見ることができたが、火葬が普及すると野辺送りのありようも次第に変化をみせ、今では棺を運んだ龕そのものも人々の記憶の中から消え去ろうとしている。

こうした状況下にありながら、豊見城村の字高安では現在でも龕を所有し、毎年旧暦8月9日には字の役員をはじめ、各門中の代表者が字の繁栄や字民の無病息災を祈願する行事を執り行っている。この行事は龕ゴウと呼ばれる行事であるが、12年に一度の辰年には、字をあげての盛大な龕ゴウ祭も行われる。戦後五度目の辰年にあたる2000(平成12)年も、祭りの約2ヵ月前から準備に取り組み、無事に祭りを終えることができた。

豊見城村教育委員会文化課では、その過程を映像資料として記録していくとともに、『豊見城村史』第7巻民俗編の編集事業の一環として観察調査を行った。今回は、こうした事業成果の一部として、字高安の龕ゴウ祭の進行過程を中心に紹介する。なお、詳細な報告については、後に発刊する「民俗編」で取り扱う予定である。この観察記録について、ご意見やご指摘、情報のご提供などが頂ければ幸いである。

最後に高安自治会の役員をはじめ区民の皆様、宜保殿内・波平両家の当主である宜保清市氏・大城成蔵氏には、祭りの準備や運営でご多忙にも関わらず、ご教示賜り衷心よりお礼申し上げます。なお、矢沢秀雄氏・石川朋子氏・宮里実雄氏・大城竜也氏には、祭りの記録を担当して頂き、そして、高江洲敦子氏・平敷兼哉氏には、龕ゴウ祭の観察調査だけでなく本稿の編集にも協力して頂いた。記してお礼申し上げます。

2001(平成13)年3月
豊見城村教育委員会 文化課

一、豊見城村字高安の概況

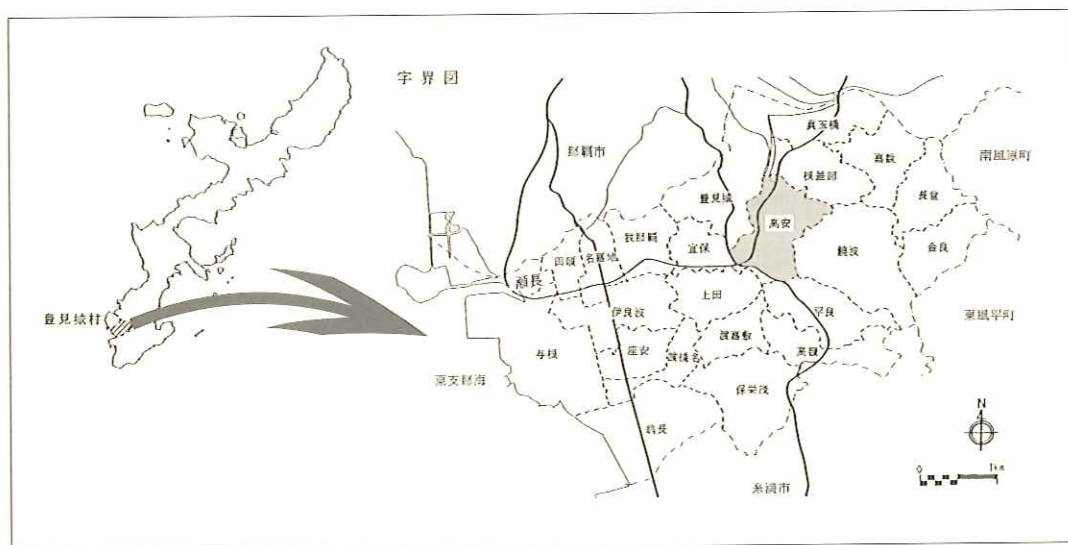


図1 高安の位置

1 位置と環境

豊見城村字高安は、沖縄本島南部、国場川下流の漫湖に注ぐ饒波川下流右岸に位置し、東は饒波、西は宜保・上田、南は平良、北は根差部・豊見城に接している。集落は嘉数丘陵域の南斜面から饒波川沿いの低地にかけて立地している。方言では「タケーシ」と呼ばれている。

高安という地名が最初に出てくるのは、1713年に首里王府が編纂した『琉球国由来記』で、以降1903(明治36)年まで豊見城間切高安村と称していた。それが1903年の土地整理終了後、大字制を導入して豊見城間切は11ヵ村となった。高安は東隣りの饒波と合併して豊見城間切^{たかの}高入端村と称した。その後1908(明治41)年に「沖縄県及島嶼町村制」が施行されると、豊見城村大字高入端となり以後1951(昭和26)年まで続いた。

集落の正面を流れる饒波川の下流には、タングチまたはタングムイという淵^{ふち}(川・沼・湖などの水が淀んで深い所『広辞苑』)があり、伝馬船の船着き場であった。村内をはじめ、島尻南部の黒糖はここで船積みされ那覇へ出荷したという。現在そこは河川改修工事で埋め立てられて、ゲートボール場となっている。

戦後の高安は復帰前まで農村地域であったが、復帰以降は集落北側丘陵域の宅地開発が進み、現在ではもとの集落である高安自治会の他にグリーンハイツ、高安台、タワーサイドハイツの3つの自治会が組織されている。また、高安地内を通る県道7・11号沿いも復帰以降は店舗が立ち並び都市化が進んでいる。世帯数1,385世帯、人口4,387人(平成12年12月現在)。そのうち、高安自治会は640世帯、1,978人。

2 旧家・門中

高安には門中は宜保殿内・波平・具志・外間・平田・新地・新垣・銘当・大座安殿内・座安殿内・上門の11門中がある。そのうち宜保殿内、波平の両家が祭祀の中心となっており、この両家での祭祀を「両元のウガミ」と呼んでいる。

『琉球国由来記』の巻十二「各処祭祀」の項によると、高安村には高安ノロがおり、同村と饒波村の祭祀を司っていた。高安ノロは宜保殿内から出ることになっており、現高安ノロは宜保殿内当主の妻である宜保千代さんがつとめている。

3 聖地

前記の『琉球国由来記』には高安村の拝所として「高安巫火神」、「崎山之殿」、「波平ノ殿」の3カ所が掲載されている。この3カ所は現在でも村落祭祀の中心となっている。崎山之殿はタンゲチ（現在のゲートボール場）隣りにあり、高安巫火神と波平ノ殿は集落北側の丘陵上に位置する。高安巫火神については現在のノロ殿内に祀られる火神がそれであろうといわれている（『豊見城村史』1964）。また、ノロ殿内の右後方には「波平の御嶽」と呼ばれる拝所があるが、これがかつての「波平ノ殿」である（『高安誌』上巻1999）。このノロ殿内や波平の御嶽の周辺にはスヌメー殿内、ナカジンといった拝所もある。

こうした拝所の集中する丘陵地の東方（高安ハイツ）にはビジュン（ビジュル）があり、アギーヘーシまたはビジュンヘーシといって、毎年旧暦9月13日に高安の住民が拝む。また、分家をしたり、子どもが生まれたりすると、このビジュンへ酒1升を供えるという。

その他に字高安にはシーシ（獅子）やアジシーと呼ばれる古墓がある。シーシのある場所はシーシヌメーとも呼ばれている。シーシは、^{カンヤ}龕屋（龕の保管小屋）に向けて設置されており、龕ゴウ祭の最後には、このシーシを拝んだ後に龕を龕屋に納める際の拝みを行う。字内に数カ所あるアジシーも村落祭祀の際に拝まれている。



- 高安の聖地
- ①ノロ殿内
 - ②波平の御塚
 - ③スヌメー殿内
 - ④アジシー
 - ⑤ナカジン
 - ⑥ビジュン
 - ⑦崎山之殿
 - ⑧シーシスメー

図2 高安のおもな聖地

4 年中行事

現在、高安自治会で行われている年中行事は以下のとおりである。期日はことわりがない限り旧暦である。祈願の内容や巡拝する拝所なども掲載したいが、ここでは期日と行事名のみ掲載する。

| 月 | 日 | 行事名 |
|-----|------------------------|---|
| 1月 | 2日 | 年頭ウガミ 初ウガミ |
| 3月 | | 三月ウガミ カミウシーミー アシビ |
| 5月 | 17日 (新暦) 13日 15日 | アブシバレー ミチャタカビ 五月ウマチー |
| 6月 | 13日 15日 25日 | クシュックイー 六月ウガミ ミチャタカビ 六月ウマチー 綱引き |
| 8月 | 9日 | ガンゴウ |
| 9月 | 13日 | 九月ウガミ ビジュンヘーシ |
| 10月 | 1日 | ヒーマチヌウガン |
| 12月 | | 年末ウガミ (ニンシーウガミ) |

※「高安誌」上巻1999:57-61より作成。

参考文献

字高安誌編集委員会編、『高安誌』上巻、前掲同、1999。

豊見城村史編纂委員会編、『豊見城村史』、豊見城村役所、1964。

角川日本地名大辞典編纂委員会編、『角川日本地名大辞典 47 沖縄県』、角川書店、1986。

横山重編、『琉球史料叢書』第一・二巻、鳳文書館、1990 (再版)。

二、龕と龕ゴウ祭について

1 ^{ガン} 龕とは

龕とは、遺体を納めた棺を運ぶ輿のことで、地域によってはコー、ゴー、ホー、ガンダラゴー、ゴウリュウ、タカラムン、ウフンマー、ガク、ヤギョウなどと呼ばれている（名嘉真1999）。龕の材質はチャーギ（いぬまき）などで作られており、全体に朱色の漆が塗られていることから「アカウマー（赤馬）」とも呼ばれた。

棺を納める部分は、屋根に宝珠をつけた入母屋造りの屋形で（平敷1995）、四面の戸板には僧や蓮などといった仏教的な絵が描かれている。

龕を保管する小屋のことをガンヤー（龕屋）という（豊見城村ではコーヤーとも呼んでいる）。この龕屋に龕を納める時は、宝珠や鯨等のような飾りはすべて取り外し、柱や戸板も丈の低いものに取り替えるため、高さは使用時の半分以下になる。運ぶときは男性が前後2人ずつで担ぐが（図3参照）、4人以上で担ぐ地域もあった。

龕屋には、龕の他にティンゲー（天蓋：竿の先に龍頭の彫り物を取り付けたもの）や四流旗（仏諸行無常・法是生滅法・僧生滅滅已・法寂滅為楽と墨書された四本の旗）などといった葬具も一緒に保管されていた。

龕はどこの字にもあるわけではなく、いくつかの字で共有したり、所有していない字もあった。このような字は他の字から賃借していた。

豊見城村内には、饒波・高安・我那覇・保栄茂・嘉数の5カ字が龕を所有していたことが確認できる。その他の字は前の5カ字や近隣町村から借用することになるのだが、龕を所有する字との距離や龕の重さなどで、借用する字を決めていたという。

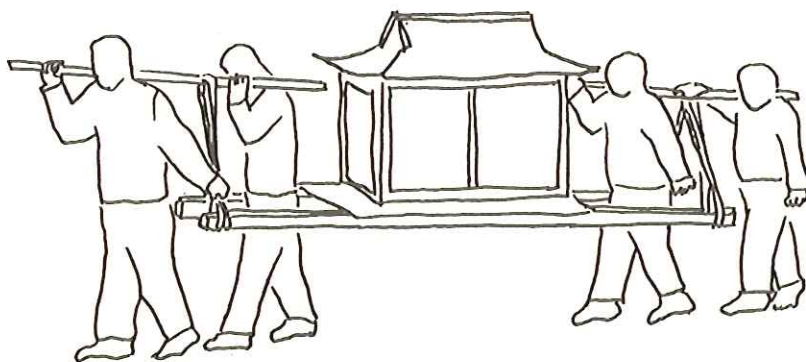


図3 龕の担ぎ方の一例

2 龕ゴウ祭

龕を新調すると死者の年忌のように新調した年から2年目、3年目、13年目、25年目…といった年、あるいは数年に一度、修理をしたり盛大に龕の祝いを行った。この祭りのことをガンヌユーエーまたはガンゴー、コーヌユーエーなどと呼んでいるが、平敷令治氏はこれについて次のように述べている。

近代には、龕を管理する組織を沖縄本島中南部ではガンゴーと呼んでいた。おそらく龕講の謂であろう。講の成員はコーニンジュ(講人衆)あるいはコーシンカ、世話役はコーサジ(講作事)と呼ばれた。(中略)ひとたび龕を造ると、三年・七年・十三年・二十五年・三十三年目には龕の祝いをおこなう。一九五〇年代から一九六〇年代にかけて火葬が普及して龕を用いなくなったが、沖縄本島中南部ではまだ龕の年季祝をおこなう。(平敷令治『沖縄の祖先祭祀』1995:98-99)

豊見城村内では饒波・高安・保栄茂の3カ字に龕が現存しているが、この3カ字では現在でも旧暦の8月9日に龕の祭りが行われている。

保栄茂では毎年旧暦8月の十五夜に豊年祭が行われるが、卯・酉年はウフドゥシといってマチボー(巻き棒)や伝統芸能などが披露され盛大に行われる。この年の8月9日には龕屋(保栄茂ではコーヤーと呼んでいる)の前で棒術や舞踊が龕に奉納される(写真2-1)。保栄茂ではこの両年に龕を修繕していたが(当間1997)、現在では拝みと奉納舞踊だけで龕屋が開けられることはない。

饒波では毎年旧暦8月9日に龕屋が開けられ、チラガー(豚の顔皮)・チム(豚の肝臓)・饅頭・酒・重箱を供え、線香があげられる(写真2-2)。その後、饒波にあるシーサーに饅頭と酒を供えている。饒波でも卯年に盛大にコーヌユーエーを行うという。



写真 2-1 字保栄茂の龕屋前での奉納芸能 (1999)



写真 2-2 字饒波の龕ゴウ (2000)

3 豊見城村字高安の龕

高安で龕がいつ頃から使われるようになったかは不明であるが、字豊見城には龕に関する次のような伝承がある。

昔、字平良のテーラシカマグチという者と字豊見城の沢舩(屋号)の二男が唐旅に出かけた。その後、何年かたって、テーラシカマグチは無事帰ってきたが、沢舩の二男は帰ってこなかった。

テーラシカマグチは、唐旅のみやげとして持ち帰った龕を沢舩の家族にあげた。沢舩では、この龕を蔵に納めたが、蔵には以前からシーシ(獅子)が置いてあり、龕とシーシは毎夜けんかをするようになった。そのため、沢舩の人は龕を高安の近くに捨て、シーシを字我那覇に譲ることになった。

(パンフレット『豊見城村字高安 龕ゴウ祭』掲載の民話を要約)

字豊見城の沢舩(上原家)は実在する家で、高安では今でも龕ゴウ祭の前日に字の役員が沢舩の神棚・仏壇を拝みに行くことになっている。この両者から高安の龕と豊見城の沢舩に何らかの関わりがうかがえる。

高安の戦前の龕は1945(昭和20)年の沖縄戦で龕屋とともに破壊されたという。現在の龕は1952(昭和27)年に復元されたものである。

1999(平成11)年に発行された『高安誌』上巻には、当時、龕の製作から落成祝いを兼ねた龕ゴウ祭当日までの記録が収録されている。これによると、高安の龕は、南風原村(現：町)字津嘉山の宮城普通氏が製作し、素材に榎・檜・杉の三種が用いられたことがわかる。

高安では毎年旧暦の8月9日に各門中墓や龕に無病息災を祈願する行事があり、これを龕ゴウと呼んでいる。また12年ごとの辰年には龕を修繕し、盛大に龕ゴウ祭が行われている。



写真 2-3 前回(1988)の龕ゴウ祭

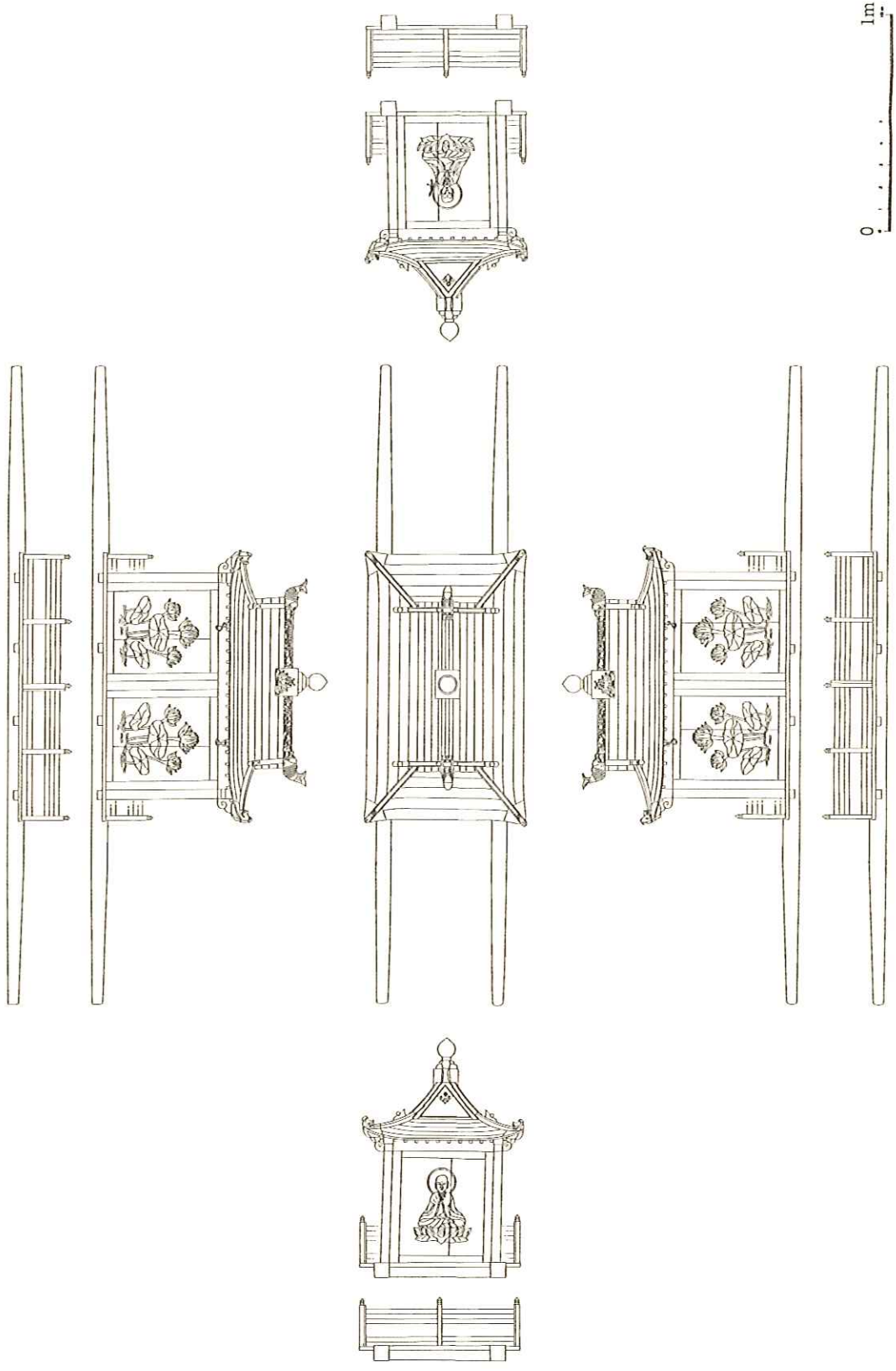


図4 豊見城村字高安の籠実測図

参考文献

- 平敷令治、『沖縄の祖先祭祀』、第一書房、1995。
- 上江洲均、『沖縄の民具』、慶友社、1980。
- ” 『沖縄の暮らしと民具』、慶友社、1982。
- 字高安誌編集委員会編、『高安誌』上巻、1999。
- 宜保喜久編、『豊見城村字高安 龕ゴウ祭』（パンフレット）、豊見城村字高安区長、2000。
- 當間浩和、「保栄茂のジュグヤーとマチ棒」『沖縄県文化財調査報告書第127号 沖縄県の祭り・行事ー沖縄県祭り・行事報告書ー』、沖縄県教育委員会、1997。
- 名嘉真宜勝、『沖縄の人生儀礼と墓』、沖縄文化社、1999。
- 崎原恒新、『ハンドブック 沖縄の年中行事』、沖縄出版、1989。
- 沖縄大百科事典刊行事務局編、『沖縄大百科事典』上巻、沖縄タイムス社、1983。
- 福田アジオ他編、『日本民俗大辞典』上・下巻、吉川弘文館、1999・2000。

三、豊見城村字高安の龕ゴウ祭観察記録（平成12年）

記録 高江洲 敦子・平敷 兼哉

はじめに 一龕ゴウ祭への取り組み一

報告に入る前に、高安自治会の龕ゴウ祭への取り組みについてふれておきたい。高安では、祭りの約2ヵ月前から準備に取り組んできたことは前述した。具体的に紹介すると7月13日（木）に龕ゴウ祭の運営に関する最初の話し合いが行われた。これを皮切りに、当日奉納される棒術の練習が7月24日から、そして祭りの最後に行われるアシビの余興の練習が8月21日から始まった。

その後、8月22日には龕の修繕箇所がないかを点検するティンダティウグワン、9月3日にはコーヌユーエーのリハーサル、9月5日に前日のウガミが行われた。このような過程を経て9月6日（旧暦8月9日）の龕ゴウ祭を迎えた。以下は龕の点検から祭り終了までを時間の流れに沿って紹介する。

1 ティンダティウグワン 新暦8月22日（火）

高安では12年に一度、辰年に龕の修繕が行われる。その点検が新暦の8月22日に行われた。この日は、字の役員を中心とした9人が龕屋に赴き、実際に龕を組み立てて破損した箇所がないか点検した。

参加者：座安利幸（区長）さん・宜保喜久（区長代理）さん・宜保晴市（宜保殿内）さん・大城成蔵（波平）さん・字の有志（古老たち）・当役（トウヤク）の総勢9人。

供物：米3kg・酒・線香12本（ヒラウコー2枚く以下、線香とする）

*供物は6人の当役（トウヤク）によって公民館で準備された。当役とは1年間の行事の準備係である。任期は2年で毎年新暦3月に3人ずつ交替する。高安では、戦前から字の行事に関する準備は、すべて当役の男性のみで行っている。これらの供物に要する費用は自治会の予算で賄われる。

次第

10:04 公民館から龕屋に9人の男性が出発。

10:18 龕屋に到着。当役の男性が龕屋の鍵を開け、区長代理が扉の前に供物を置いた。その後、宜保晴市さんを中心に全員が手を合わせる(写真3-1)。祈願がすむと宜保晴市さんが酒を捧げ、区長代理が扉を開けた。

10:25 龕屋から龕が取り出され、点検作業が始まる。

①龕の屋根の部分はずされ、古老たちが中に納められている部品を一つずつ取り出しながら点検する(写真3-2)。

②龕本体の部品や、屋根を飾る装飾品などについて埃を区長代理をはじめ、当役らが拭きとる(写真3-3)。

③組み立て作業

a 龕の底板に、屋根を支える4本の支柱が四隅に立てられると、その上に屋根をのせた(写真3-4)。

b 龕の前面と後面に僧が描かれた板が一枚ずつはめられ、その後で、左右の側面に蓮の花が描かれた板を二枚ずつはめた。

c 龕本体の組み立てを終えると、屋根の装飾品(髷・宝珠く地元ではガランと呼んでいる)・鳥くトゥイグワ)を点検しながら飾る。その一方では、龕本体にあけられた縄穴に縄を通して結び、龕本体の安定性を確認する(写真3-5)。



写真3-1



写真3-2



写真3-3



写真3-4



写真3-5

d 欄干の部分がはめられ、組み立て作業終了。

10:55 組み立てが完了すると、古老たちを中心に念入りに点検を行う。点検の結果、異状なしということであったが、龕の年忌には若干手を加えたほうが縁起が良いということから、今回は下記の部分について修理を行うことに決まる。

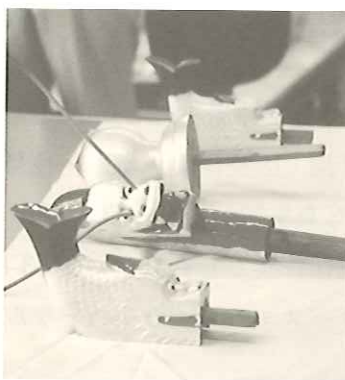


写真3-6 塗り替えられた付属品
(高江洲敦子氏提供)

①屋根を装飾する鯨2つ、宝珠、天蓋などの漆塗り替え(写真3-6)。

②龕屋の屋根部分の葺き替えと、扉を新しくする。

※龕屋の修理に関する拝みは、字の役員で後日行う。

11:13 点検が終了すると龕が解体された。

11:22 解体終了。

龕屋に龕を納める。龕を納めると扉を閉めて鍵をかけ、その扉の前に線香12本と供物(酒・米3kg)が供えられた。取り出す前と同様に宜保晴市さんを中心に全員が手を合わせた。その後、宜保さんが線香に酒を捧げた。

2 龕屋・シーシヌメーの掃除及びコーヌユーエーのリハーサル

新暦9月3日(日)

龕ゴウ祭の本番も差し迫った9月3日、この日は龕屋周辺とシーシヌメーの清掃が、字の区長・区長代理・当役・役目によって行われた。龕屋は周辺の草刈り作業で済んだが(写真3-7)、シーシヌメーは雑木が生い茂り、祭りの遂行に支障を来すために雑木の伐採作業が行われた(写真3-8)。そして、この日の夕方には、祭りの最後に行われるコーヌユーエーのリハーサルが当日のプログラムに沿って行われた。



写真3-7 龕屋の掃除

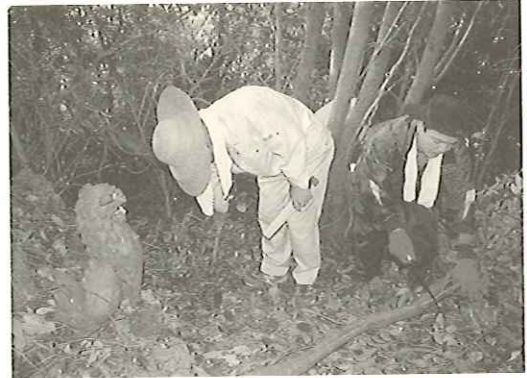


写真3-8 シーシヌメーの掃除

16:20 コーヌユーエーのリハーサル

リハーサルの次第

- ①あいさつ
- ②かぎやで風
- ③棒術
- ④空手演武
- ⑤婦人会
- ⑥子供エイサー (50名)
- ⑦ジュニアエイサー (とよむ若太鼓)
- ⑧東西の旗頭ガーエー
- ⑨ミチズネーの練習

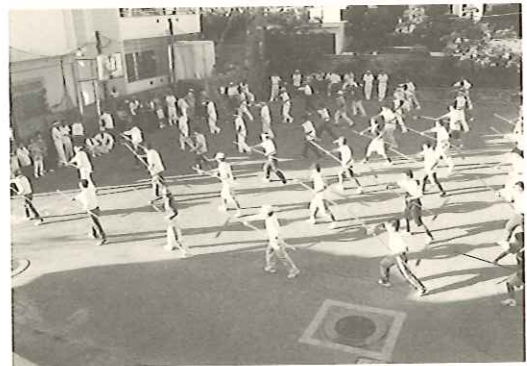


写真3-9

3 前日のウガミ 新暦9月5日(火)〈旧暦8月8日〉

龕ゴウには、各門中の代表者がそれぞれの門中墓へ詣でる。その後、区長や顧問ら数人は字豊見城の上原家(屋号・沢紙)へ拝みに行く。本来は、龕ゴウ祭当日に墓参を行うべきであるが、当日は時間的に余裕がないため、戦後最初に龕ゴウ祭を行った1952(昭和27)年以来、前日に行うようになった(宜保晴市さん談)。例年の龕ゴウでは、門中ごとの墓参を終えると、龕屋の前に各門中の代表者が集まって祈願を行う。

昔の龕ゴウでは、龕屋での拝みの後、各家庭に酒5勺と「の饅頭」(以下、饅頭とする)が1個ずつ配られた。そのため、村人はサキジューカー(酒急須)を持参して龕屋に赴いた。また、15歳以下の子どもたちにはもれなく饅頭が1個ずつ配られた。

供物 豆腐9切(醤油で煮付けた約4cm×8cm角)、三枚肉7切、酒4合瓶1本。豆腐と三枚肉は一つの容器に盛り、酒、茶碗1コ、割箸2膳を1組にして会席膳(小)に準備される(写真3-10)。供物は字と9門中の10組準備された。

次第

16:23 区長・区長代理・9門中の代表者・当役6人が供物の膳を供えて公民館内の床を拝む。ここでの拝みには線香は焚かない。拝みを終えると区長が酒を捧げた(写真3-11)。



写真3-10 供物

16:26 公民館での祈願の後、各門中の代表者は当役が準備した供物(膳)を受け取り、それぞれの墓へ向かう。



写真3-11

16:35 宜保門中の例:宜保門中の墓へ到着。

①宜保門中の墓へは宜保殿内の当主(宜保晴市さん)と、波平の当主(大城成蔵さん)2人が赴く。両家は共に宜保門中に属するという。

②墓に到着すると、まず、墓に向かって左側のアジシー墓(現在使用しない墓をいう<宜保さん談>)の墓前に、宜保さんが供物膳を供え、大城さんが線香12本の二組を供えて祈願を行った。その後に宜保さんが茶碗の酒を捧げた(写真3-12)。

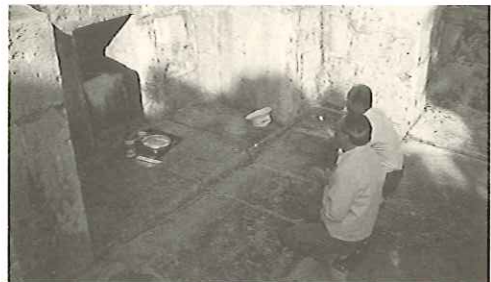


写真3-12

16:38 続いて右側のトーシー墓へ移動。トーシー墓とは、現在使用している墓をいう。このトーシーは69年前に左隣の墓（アジシー墓）が一杯になったため増築した（宜保さん・大城さん談）。

①アジシー墓に供えた供物とは別に、新しい供物の膳を宜保さんが供え、大城さんが線香12本の2組を供えて「次の13年までお守り下さい」と唱えて拝んだ。

②拝み終わると、アジシー墓と同じように宜保さんが、供えられた線香に酒を捧げた。

16:40 拝みがすむと見学者に供物のウサンデー（直会）があった。

17:10 字豊見城の沢岬（上原誠徳さん宅）へ向かう。

17:25 沢岬に到着。到着すると一番座の神棚に饅頭9個を詰めた重箱とゴボウ・かまぼこ（紅白）・豆腐・田芋・サヤインゲンの天ぷら・魚の天ぷら・こんにゃく・昆布などを詰めた重箱、酒を注いだ盃を供え、3つの香炉に線香15本を立てて手を合わせた。手を合わせ終わると、区長が神棚の3つの盃に酒を左側から順に捧げた。

17:30 次いで二番座に移動し、神棚に供物（一番座と同じ）を供え、2つの香炉に線香15本を立てて手を合わせる。祈りが終わると、神棚の盃に酒を捧げた。その後で直会があり、見学者にも饅頭や飲み物が配られた。



写真3-13 供物



写真3-14 一番座の神棚



写真3-15 二番座の神棚

4 龕ゴウ祭 新暦9月6日(水)〈旧暦8月9日〉

龕ゴウ祭当日の日程は①龕のウンチケー②龕の組み立て③棒術④両元ウガミ⑤龕屋とシーシヌメーでのウガミ⑥コーヌユーエーに大別できる。これらのうち①②は龕の組み立て・安置だけでなく、旗頭の組み立てや供物の準備など祭り全体の準備である。そして、③以降が祭りの本番となる。③では棒術の演武や旗頭のガーエーによって氣勢をあげる。④⑤は祭りの中心でおもに祭祀儀礼で構成される。⑥は祭りを無事に終えた祝いで、棒術や奉納舞踊の他に、各種団体の余興が披露される。

①龕ウンチケー

参加者 宜保喜久区長代理・宜保晴市(宜保殿内当主)さん・大城成蔵(波平当主)さん・当役数人と字の有志の総勢14人。

供物 米・酒・線香15本。

次第

8:30 公民館前広場にかかる電線を取り除く。

9:06 男性たちが、公民館を出発して龕屋に向かう。

9:10 龕屋に到着。

a 龕屋の鍵を開け、米と酒を供え線香をあげて参加者全員で手を合わせる。

b 手を合わせ終わると、宜保区長代理が、供えられた米を摘まんで頭上にいただき、その後、線香を取り除き、その場所に茶碗酒を捧げた。

9:13 龕屋から龕が取り出される。

9:16 7人の男性が龕を担いで公民館へ向かう。

9:20 龕が公民館に到着。

公民館の前にマク(枕:龕を置く木の台)

が置かれ、その上に龕がおろされると、水で濡らしたタオルで屋根部分の汚れを拭きとる。龕の後方にゴザを敷く。4人の男性が屋根を取り外してそこに置くと、屋根の側面や裏側をタオルで拭き、さらに、酒を含ませたキッチンペーパーで再度拭き直す。

一方では龕本体の中から部品を取り出す。中には僧が描かれた板(前後)



写真3-16



写真3-17

2枚、蓮の花が描かれた戸板4枚、支柱8本、欄干8枚、そして装飾品の鳥や宝珠などが納められている。取り出した部品や装飾品もタオルで水拭きをしたあとで、酒を含ませたキッチンペーパーで再度拭く(写真3-18)。その傍らでは竜頭を竹筒にはめ込んでティンゲーの組み立ても始まる(写真3-19)。



写真3-18

② 龕の組み立て

9:26 龕本体の周囲を括る縄を外して分解する。そして担ぐ部分を逆さにして裏側の汚れを拭き取る。

9:30 逆さにした龕を元に戻し補修作業へと移る。龕の側面3カ所、横1カ所は釘を打って補修した(写真3-20)。

9:41 汚れの拭き取りや補修作業がすむと龕を組み立てる。四隅に柱を立て僧の絵が描かれた板が龕の前後にはめられる。左右の側面には蓮の花が描かれた板が2枚ずつはめられた。

9:44 屋根を被せる。屋根の先に黒鳥、屋根の頂には黒漆塗りの棟飾り、鯨などの装飾品が釘で固定された。

※縄で龕本体を括る作業にはいるが、縄の結び方を覚えている方がいなかったもので、古老に連絡して結んでもらう。

10:00 縄を結び直している間、酒を含ませたキッチンペーパーで龕全体を拭く。また、ティンゲーの組み立てもすすめられている。縄を結び終わると欄干を飾る。

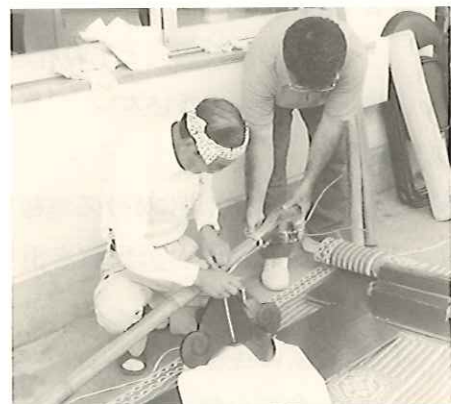


写真3-19 ティンゲーの組み立て



写真3-20 龕の補修(平敷兼哉氏提供)

10:10 欄干の四隅の固定は、これまで金具を用いていたが、その金具が錆びていたので今回は紐を使って固定した。屋根に宝珠を飾ると、一通り完成した(写真3-21)。



写真3-21

10:30 龕の組み立てが完了すると、僧が描かれた面(槍を背負う僧)を開け、残った部品などを龕の中に納めた。次いで旗頭を公民館から出して組み立てる。公民館に向かって左側にヤイ(槍)、旗文字「勸農」。右側にナギナタ(長刀)、旗文字「深耕」を立て固定する。

【旗頭について】

高安の旗頭は、竿頭にヤイ(槍)、ナギナタ(長刀)を飾った2本あり、双方とも龍の口からヤイやナギナタが空に向かって伸びた形をしている。掲げる旗は、ヤイの旗文字が「勸農」、ナギナタの旗文字が「深耕」で農耕との関わりを表している。両旗は縁が青色で、文字の上に朱色の横線2本が描かれている。旗竿は竹を利用しており、竿を補強する縄は巻いておらず、底に白いビニールテープを巻いて膨らみをつけている。この他にも両旗頭に「太平 字高安」と書いた吹き流しと、旗頭のバランスを保つ縄が各3本ずつ取り付けられている。通常この旗頭は、ヤイが宜保殿内に、ナギナタが波平に保管されている。

高安の旗頭のうち「勸農」は、高安出身の地頭代座安親雲上が琉球において初めて原勝負を行った功績により、首里の王府から拝領したという伝承がある。高安では、旧暦6月に綱引きが行われるが、旗頭は出さず、龕ゴウ祭のみに使われる。戦前は原勝負の差し分け式にヤイの旗頭を持ち出して、会場の字豊見城のウマイー(馬場)へ向かったという。



写真3-22 ヤリ(槍)「勸農」



写真3-23 ナギナタ(長刀)「深耕」

10:45 業者に注文していた供物のチラガー（豚の顔皮）などが公民館に届く。

11:00 当役の男性らが、龕屋・宜保殿内・波平・シーシヌメーへの供物の準備を行う。



写真3-24 供物を準備する当役



写真3-25

13:00 公民館前のテントを移動し、テーブルや椅子が用意され、観客席を設置する。

13:10 宜保区長代理が、出演者・区民に公民館へ集合するよう放送する。

13:32 龕を移動させ、龕の後ろ側にもテーブルや椅子が設置された。



図5 倉ウチケケの順路

③龕ゴウ祭

14:00 全員集合したので、龕ゴウ祭開始のあいさつを宜保区長代理が行う。

14:01 ヘーイ棒（1班）

公民館に向かって横5列、縦7列の計35人が整列し「用意、始め！」を合図に、銅鑼の音にあわせて棒術を披露する。一通り終わると右に向きをかえ、再び合図と共に棒術を披露する(写真3-26)。

衣装：a 白のワイシャツにズボン。

縁が紫色の陣羽織（高安では棒羽織と呼んでいる）、
頭には紫のマンサージ、足

には脚絆。→主に前列と2列目に配置。

b 白のワイシャツにズボン。紫色のタスキ。頭に白の鉢巻き。

14:06 ヘーイ棒（2班） 横5列、縦7列の計35人。動作は上記に同じ。

14:10 ヘーイ棒（3班） 横5列、縦7列の計35人。動作は上記に同じ。

14:14 ヘーイ棒（4班） 横5列、縦7列の計35人。動作は上記に同じ。

14:16 ヤリ（ヤイ）とナギナタ①

（演者：座安豊昭さん、外間甫さん）。カネの調子に合わせて演武。演武が終わると互いに礼をし、次に正面に礼をして退場する(写真3-27)。

14:19 ヤリとナギナタ②（演者：宜保兼行さん、宜保政光さん）動作は上記に同じ。

14:20 タンカー棒①(写真3-28)

（演者：平田守さん、宜保政光さん）

カネ（銅鑼）の調子に合わせて演武。

14:22 タンカー棒②

（演者：座安睦男さん、座安能成さん）

動作は上記に同じ。



写真3-26

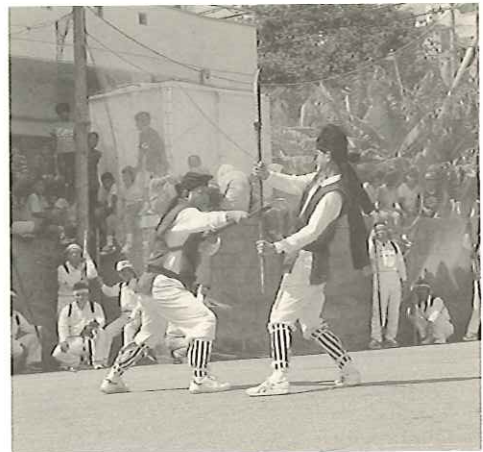


写真3-27

14:23 個人棒①

(演者：宜保豊さん、宜保大輔さん)

14:25 個人棒② (演者：宜保さん)

14:27 個人棒③ (演者：平田実さん)

突きの動作のない演武で高安独特の棒術(写真3-29)。

14:29 個人棒④ (演者：外間さん)

14:30 行列、ガーエーの予行練習。ヤリ、ナギナタの両旗頭を出す。ヤリの旗頭には2班と4班のメンバーが、ナギナタには1班と3班のメンバーがつく。

14:33 班の振り分けが終わると「ヒャーユイ」の合図でガーエー開始。双方とも六尺棒を持った男たちが旗頭を中心にして集まり、手にした棒で旗頭の竿を一斉に叩く。男たちは竿を叩きながら「ヒャー、ユイ、ヒャー、ユイ」の声を出す。しばらくして「ヤー」という。(写真3-30)

14:35 ガーエーの練習終了。

14:39 かぎやで風の演舞(8人)(写真3-31)

衣装：舞手は金色の着物に帯、白足袋を履き、金色の扇子を持って踊る。地謡は8人で、そのうち三線は7人、太鼓1人。三線の方は笠を被り、中からハチマキを締め、白いシャツとズボン。シャツの上から陣羽織をはおり、紫色の帯を締める。太鼓は平吊り太鼓と締め太鼓の2つを使う。(写真3-32)



写真3-28



写真3-29



写真3-30



写真3-31 かぎやで風



写真3-32 地謡

14：43 かぎやで風の演舞終了。

14：45 宜保殿内、波平の両元への出発準備。

14：50 旗頭ガーエー。「ヒーヤーイー」の掛け声で東西の旗頭が掲げられると、双方の男たちは「ヒャーユイ」の掛け声とともに、手にした六尺棒で一斉に旗頭を叩く。

④両元のウガミ

供物 重箱（9品）・饅頭11個・酒（四合瓶1本）・花米（2kg）。

上記供物に割箸と、茶碗が添えられている。

次第

【宜保殿内へ向かう組】

- 14:55 東組（宜保殿内へ向かう）から出発。ミチジュネーの行列は、供物係の男性2人を先頭に、旗頭（ヤイ）、棒術、奉納舞踊のメンバー、子どもたちが続く。地謡は3人。
- 14:58 十字路（アジマー）に至ると旗頭を掲げて掛け声とともに氣勢をあげる。さらに、宜保殿内に到着すると門前で旗頭を掲げて氣勢をあげる。
- 15:00 供物係の男性2人が屋敷内に入り、宜保殿内の当主夫妻にあいさつをする。続いて、旗頭が殿内の庭に入場し、旗頭ガーエーを行う。
- 15:03 宜保殿内の屋敷内東側（母屋に向かって右側）の神屋に、当主夫妻と役員が入る。神屋正面の神棚は3つに区切られている。また神棚に向かって右側の天井近くには、今帰仁へのお通し香炉が安置されている。
- 15:07 神屋では、まず神棚に向かって左側の火ヌ神に線香12本を立て、饅頭11個を詰めた重箱と、2kgの米（ミハナ）、4合の酒を供えて当主夫妻と役員が拝む(写真3-33)。火ヌ神での拝みの後、当主の宜保晴市さんが、火ヌ神へ酒を捧げてから右側の神棚へ移動する。右側の神棚には5つの香炉が安置されている。5つの香炉に線香12本を立て、火ヌ神と同じ供物を供えて拝み、酒を捧げた(写真3-34)。
- 15:09 中央の神棚に移って手を合わせた。拝みが終了すると、男たちが酒をウサンデーした。
- 15:10 今帰仁へのお通し香炉にも線香と供物を供えて、拝みを行う。
- 15:12 再び、火ヌ神に供物を供えて拝み、その後で参加者に盃が回された。



写真3-33



写真3-34

15:16 母屋の一番座に祀られる神棚（根所へのお通し）に、線香12本の2組を供え、神屋と同様の饅頭や酒を供えて拝む。母屋の神棚に向かって右側の天井近くには、門中のクディに関連する香炉が安置されている。クディの香炉にも線香をあげた(写真3-35)。

15:18 続いて二番座の仏壇に、供物を供えて拝む(写真3-36)。

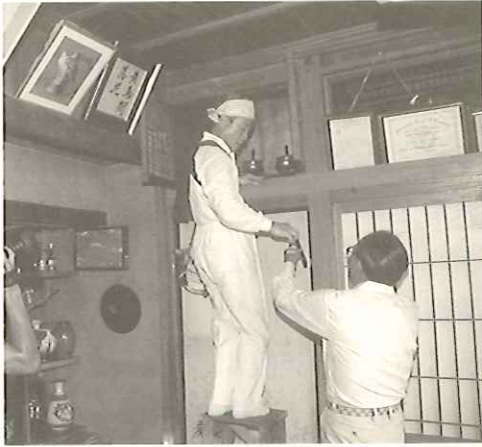


写真3-35



写真3-36

15:20 宜保殿内での祈願終了。

15:23 殿内の庭では、婦人2人による「かぎやで風」の他、タンカー棒、ヤイとナギナタなどの演舞が奉納された。

15:33 奉納舞踊や棒術に続いて、旗頭を空高くかざして氣勢をあげた(写真3-37)。

15:35 宜保殿内での儀礼が終了すると、役員・旗頭・棒術・奉納舞踊・子供たちからなるミチジュネーの一行は、殿内の門を出る。その時、再度旗頭を掲げて氣勢をあげた。宜保殿内から公民館まで3カ所で氣勢をあげた。



写真3-37 宜保殿内でのガーイー

15:46 公民館へ到着。

【波平へ向かう組】

14:57 公民館を出発したミチジュネーの一行は、アジマー（十字路）に差し掛かると、旗頭ガーエーを行う。

15:00 十字路に差し掛かり再びガーエーを行う。

15:02 波平（大城成蔵さん宅）に到着し、門前で旗頭を立てガーエー。役員が当主にあいさつをする。そして旗頭が屋敷に向かってヒンプンの右側から入場し、その裏側で立てて、旗頭を振り棒術のメンバーがそれを叩く。

15:05 役員と当主の大城さんが屋敷右側にある神屋に入る。神屋内の神棚は3つに仕切られている。そこで供物を供え、線香 120本（12本×10個の香炉）に火をつけ、宜保区長代理がそれぞれの香炉に線香を立てる。

15:08 火ヌ神に供物を供えて拝む。区長代理と当主の大城さんを前列にし、他の役員が後方で手を合わせる。茶碗に酒を注いで再度手をあわせる。そして茶碗の酒を火ヌ神前に置かれたグラスに注ぐ(写真3-39)。

15:10 2つの位牌を拝む。区長代理が茶碗に酒を注ぎ、全員で手を合わせる。区長代理が立ち上がって一礼し、位牌の前に置かれたグラスに左側から酒を注ぐ(写真3-40)。

15:11 7つの香炉を拝む。区長代理が茶碗に酒を注ぎ、香炉の前で一同、手を合わせる。区長代理が立ち上がって一礼し、中央にあるグラスに酒を注ぐ。区長代理が「どうもありがとうございました」と礼を述べる(写真3-41)。



写真3-38 一行を出迎える波平の大城成蔵さん



写真3-39



写真3-40



写真3-41

15:13 母屋の前庭で奉納舞踊の「かぎや
で風」を踊る。踊り手2人、地謡
(三線2人、太鼓1人) 3人。

15:16 ヘーイ棒 (1人)

15:18 個人棒 (1人)

15:20 タンカー棒 (2人)

15:21 ヤリ、ナギナタ (2人) (写真3-42)

15:23 区長代理が波平での祈願が終了し

たことを告げた後、ヒンプン裏側のブロックに括り付けた旗頭を取り外し気
勢をあげる。

15:25 役員を先頭に旗頭・棒士・奉納舞
踊・婦人会の踊り手・子供たちと
列をなし、公民館へ戻る。旗頭は
立てたまま行進する。

15:30 十字路に差し掛かり、旗頭を囲み
氣勢をあげる。終わると旗頭を横
たえて行進する(写真3-43)。

15:31 十字路に近付いてきたので再び旗
頭を立て、十字路で旗頭を取り囲んで氣勢をあげる。

15:32 公民館に到着し、広場で旗頭を取り囲んで氣勢をあげる。

15:38 公民館内から龕屋とシーシヌメーへ
の供物が出され、龕の横に設置され
たテーブルに置く(写真3-44)。

15:46 宜保殿内での祈願を終えた一行が公
民館に戻ってくる。

15:47 宜保殿内へ行ったヤリの旗頭、波平
へ行ったナギナタの旗頭、双方の旗
頭が公民館前の広場でガーエーを行
う。

15:48 旗頭ガーエー終了。

15:50 龕屋への供物をワゴン車にのせる。シーシヌメーへの供物はそのまま置いて
ある。



写真3-42



写真3-43



写真3-44

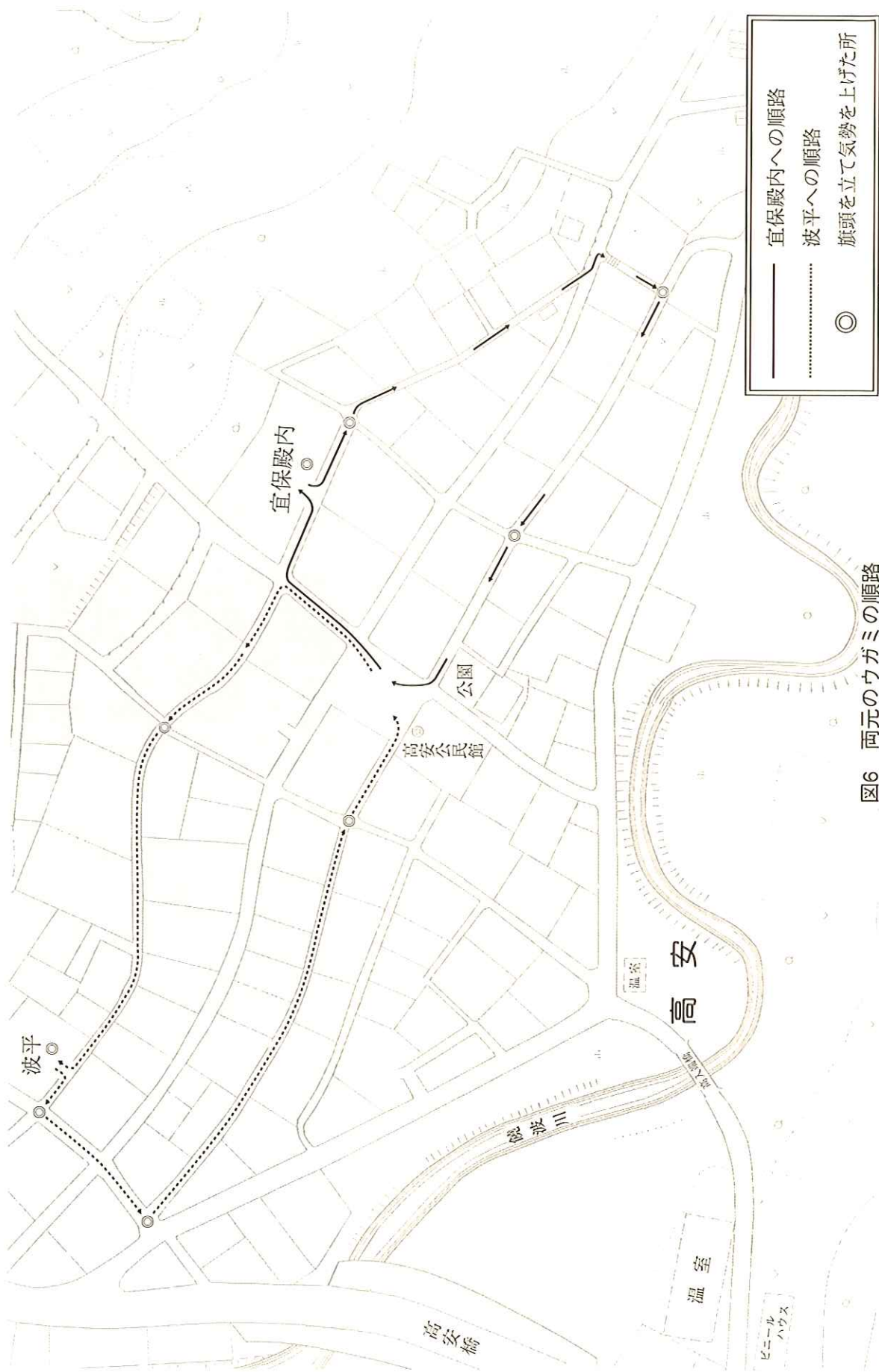


図6 両元のウガミの順路

⑤ ミチズネー（龕屋及びシーシヌメー）

龕を龕屋に納めるため、古老達を先頭にした行列が龕屋へ赴き、「次の辰年までお鎮まり下さい」と祈願する。また、別の一行がシーシヌメーへ赴き、「龕を見守るよう」に祈願する。なお、龕屋での祭祀記録は、見物人が多く記録が一部不可能となったため、映像資料で補った。

供物

龕屋：酒（4合瓶1本）・饅頭（35個を盛った盆2）・米（2kg）・鶏（2羽）・ムイメー（赤飯を盛った椀2）・チラガー（豚の顔皮2枚）・チム（豚の肝臓2）・線香・ウチカビ（20枚）・硯・墨・筆・扇子・白紙（習字用半紙を三つ折りにしたもの）各一対・茶碗(写真3-45)。



写真3-45

シーシヌメー：酒4合瓶1本・饅頭9個・米（2kg）・肴皿（豆腐5枚・里芋3個・こんにゃく5・昆布3・かまぼこ赤5枚・かまぼこ白3枚・三枚肉3枚・ゴボウ3・天ぷら3）(写真3-46)。



写真3-46

次第

【シーシヌメー】

16:08 シーシヌメーに向かうメンバー（区長代理・役員3人）が出発。

16:12 シーシヌメーに到着すると、シーシの前に供物を置き、茶碗に酒を注ぎ、線香24本の3組に火をつけて供える(写真3-47)。シーシヌメーから龕屋の様子をうかがう。



写真3-47

16:18 行列が龕屋に着いたのを確認すると、区長代理が龕屋に向かって旗（供物を包んだ風呂敷を六尺棒の先に括り付けたもの）を振り、合図を送る(写真3-48)。

16:20 龕屋の方から「おーい」の声と六尺棒を振る合図をうけて、シーシヌメーの区長代理が旗を振る。



写真3-48

- 16:21 シーシヌメーで祈願開始。区長代理をはじめ役員が手を合わせ、次いで区長代理が茶碗に注いだ酒を線香にかける。再度、全員が手を合わせる(写真3-49)。
- 16:22 終わりの合図で再度旗を振り、龕屋へ向かう。



写真3-49

【龕屋へのミチズネー】

- 16:00 古老らを先頭に、ドラ打ち・六尺棒・龕・ティンゲー持ち・六尺棒・村人と続く行列が龕屋に向かう(写真3-50)。
- 16:18 行列の一行が龕屋に到着すると、龕を解体して龕屋へ納めた。龕屋前の路上では東西の旗頭がガーエーを行った。



写真3-50

- 16:35 龕屋では龕の前に供物を置き(写真3-51)、線香をあげて拝みが始まる。拝んだ後、供物の傍らでウチカビを燃やした。そして、饅頭を1個、重箱の中の1品を裏返し、再び拝み、龕屋での拝みはこれで終了した。

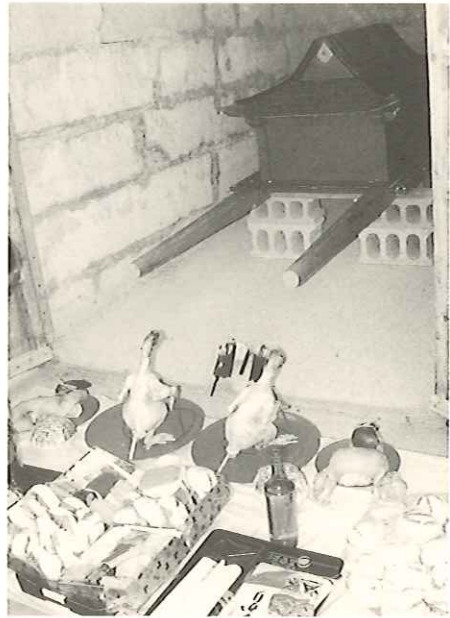


写真3-51

- 16:40 拝みが終了すると参加者や見学者に饅頭が配られた。

- 16:43 龕屋横の路上で、かぎやで風・タンカー棒・ヤイトナギナタ・ヘーイ棒(10人)などの演舞が奉納された(写真3-52)。

- 16:55 龕屋での行事を終了し、供物などが公民館へ運ばれる。旗頭はガーエーで氣勢をあげ、中道(ナカミチ)を通して公民館へ移動。その後、龕屋の扉を閉じて鍵をかけた。



写真3-52

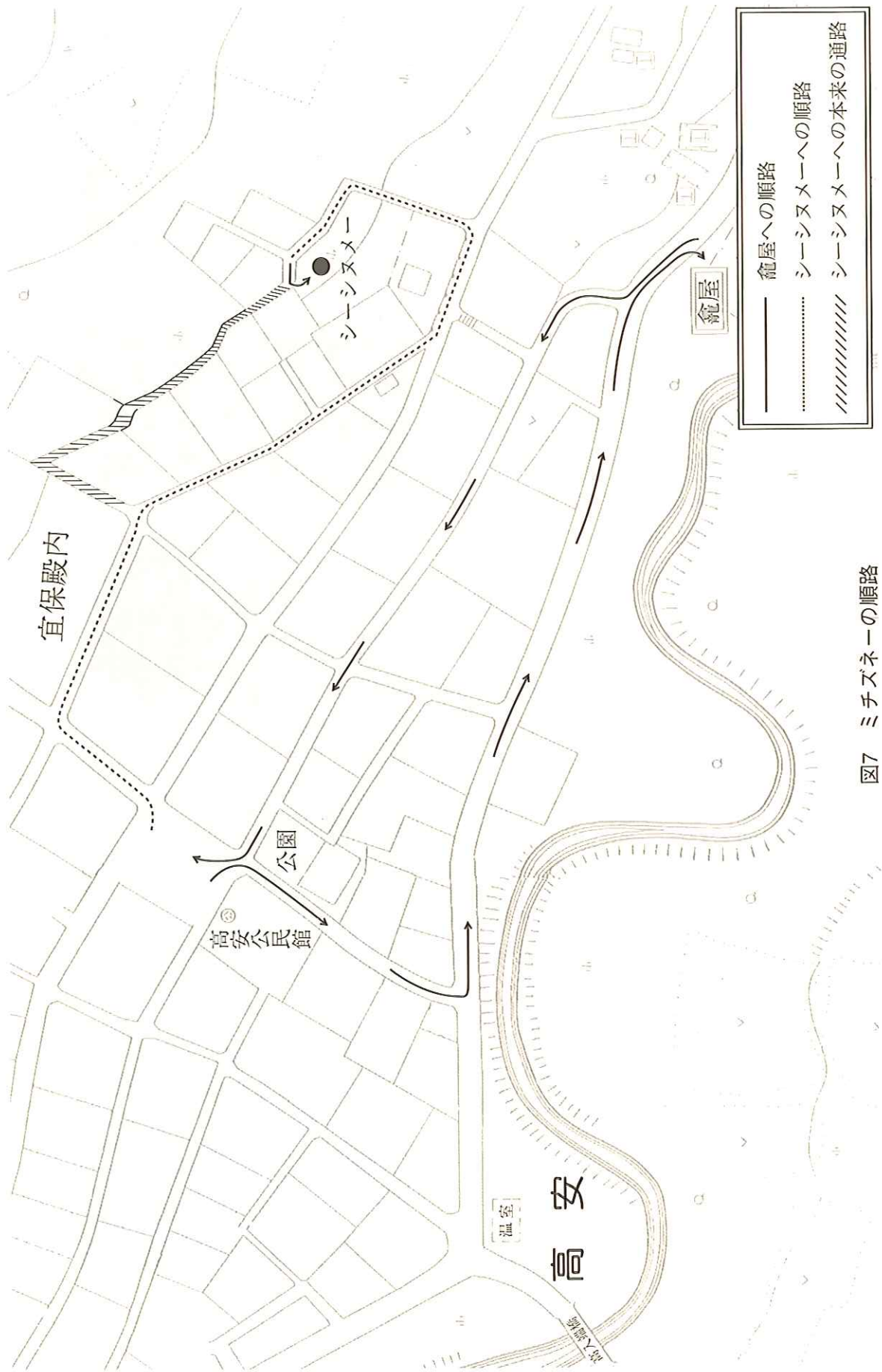


図7 ミチズネーの順路

⑥コーヌユーエー

龕ゴウ祭を無事に終えたことを祝い、奉納した棒術や舞踊などをはじめ、各種団体の余興が披露される。

次 第

- 17:30 かぎやで風
- 17:39 ヘーイ棒 (1班)
- 17:42 ヘーイ棒 (2班)
- 17:45 ヘーイ棒 (3班)
- 17:48 ヘーイ棒 (4班)
- 17:51 個人棒
- 17:58 タンカー棒
- 18:02 ヤイ・ナジナタ
- 18:05 主催者あいさつ (座安利幸区長)
- 18:12 子どもエイサー
- 18:22 婦人会①「繁盛節」・「白保節」
- 18:29 寿友の会①「めでたい節」
- 18:34 来賓あいさつ
(金城豊明村長～18:40)
- 18:41 来賓あいさつ
(与那覇清雄議長～18:44)
- 18:45 テント撤収
- 18:48 寿友の会②「花の沖縄」
- 18:50 空手演武。19:05終了。
- 19:06 ヘーイ棒 (1班、5列、33人)
正面 (公民館に向かって) が終わり「右向け、右」の合図で右に向き、再度、演武を行う。
- 19:10 ヘーイ棒 (2班、5列、33人)
以下、動作は上記に同じ。
- 19:12 ヘーイ棒 (3班、5列、34人)
- 19:16 ヘーイ棒 (4班、5列、34人)



写真3-53



写真3-54

19:20 県議会議員あいさつ (外間盛善氏~19:27)

19:29 個人棒

①外間正規②外間剛・外間ハルキ③宜保晴毅・宜保政光④座安能成・平田守
⑤宜保静男 (高安伝統の型といわれている) ⑥宜保剛⑦宜保徳次 (①~⑥ま
での間は鐘打ち。司会からの指名で演武することになった) (写真3-55)

19:40 終了。

19:40 婦人会②「かりゆし我たあしんか」

19:46 子ども会・ジュニアリーダー (25
人) 「うるまエイサー」

20:06 ジュニアリーダー (7人)

「とよむ若太鼓」

子供たちへのエイサーを指導して
きた宜保エイ子さんほか2人に対
し、司会が感謝の言葉を述べる。

20:07 タンカー棒

20:10 ヤイ・ナギナタ

20:17 寿友の会・婦人会合同演舞 (56人)

「豊見城音頭」他4曲(写真3-56)

3列になって反時計回りに円にな
って踊る~20:37

20:39 司会の指名で外間ウシさん (90歳)

の加那ヨー~20:42(写真3-57)

20:43 カチャーシー~20:49

20:50 広場にテーブルが用意され、慰労
会が始まる(写真3-58)。こうし
て12年に一度の龕ゴウ祭は区民の
熱気冷めやらぬまま終了した。



写真3-55



写真3-56



写真3-57



写真3-58

豊見城村史編纂室・文化課業務日誌（平成11年11月～平成12年12月）

平成11(1999)年

- 11・30 糸満市教育委員会文化課訪問。民俗編の編集についてアドバイスを受ける。
- 12・6 字平良の軍構築壕調査（社会教育課文化係・具志・大城・儀間）
- 12・16 県教育庁文化課より資料借用。
- 12・17 第16回戦争編専門部会
- 12・21 字平良の壕、位置確認聞き取り調査（登川専門部員・大城・儀間）
- 12・28 仕事納め

平成12(2000)年

- 1・4 仕事始め
- 1・5 字平良ウフンミモーの軍構築壕調査（文化係・大城・儀間）～1・6
- 1・17 字名嘉地の共同墓調査（大城・儀間）
- 1・19 第17回戦争編専門部会
- 2・23 第18回戦争編専門部会
- 3・14 糸満市摩文仁の慰霊奉賛会で村内慰霊塔関係資料収集（大城・儀間）
- 3・31 宜保喜久室長定年退職
- 4・3 組織改革により社会教育課文化係と村史編纂室が統合され文化課設置。文化係、村史係の2係になる。天久光宏課長・真栄田純一文化係長・与那嶺豊主査着任。
- 4・12 安仁屋政昭専門部会長来訪。
- 4・13 字瀬長アカサチモーの軍構築壕調査（大城・与那嶺・儀間）
- 4・17 長嶺栄一専門部員来訪。
- 4・24 中央公民館図書室より沖縄関係書籍移管。
- 4・28 沖縄県史跡整備市町村協議会定期総会に参加。於：石川市（与那嶺）
- 5・12 字瀬長の防空壕調査。（大城・儀間）
- 5・15 第3回民俗編専門部会。
- 5・19 市町村文化行政事務担当者会議に参加。於：今帰仁村（真栄田）
- 5・21 第8回豊見城村文化協会定期総会に出席。（天久）
- 5・25 沖縄県博物館協会春期研修に参加。於：那覇市（真栄田）
- 5・29 第1回文化財保護審議会開催。
- 6・1 沖縄県地域史協議会研修・総会に参加。於：嘉手納町（具志・与那嶺・儀間）
- 6・5 真玉橋のハーリー御願調査。（儀間）

- 6・10 第1回民俗編執筆者会議。
- 6・14 沖縄県文化財保護行政担当者研修会に参加。於：西原町（真栄田）
- 6・14 字与根戦災調査。（村史係）
- 6・30 字翁長大城区長より六月ウマチーについて話を伺う。（儀間）
- 7・15 字翁長ウブンヌワンデー調査（高江洲調査員・儀間）
- 7・16 字翁長六月ウマチー調査（高江洲調査員・儀間）
- 7・17 区長会で民俗調査の協力を依頼。
- 7・19 字宜保金城区長訪問。字宜保の民俗調査について調整（石附調査員・儀間）。
- 7・21 字翁長六月ウマチー補足調査（高江洲調査員・儀間）
- 7・22 字豊見城喜屋武区長訪問。網引き調査について調整。（平敷調査員・大城・儀間）
- 7・24 字伊良波民俗調査（大城調査員・儀間）
- 7・26 字伊良波・宜保・豊見城網引き調査（大城・石附・平敷調査員、大城・儀間）
- 7・30 字与根網作り・伊良波網引き調査（大城調査員・儀間）
- 8・2 字与根の網計測（与那嶺・儀間）
- 8・4 字宜保民俗調査（石附・大城調査員、儀間）
- 8・5 字与根網引き調査（高江洲調査員・儀間）
- 8・7 大城りつ子民俗編専門部員来訪。字平良の民俗調査の調整。
- 8・9 字平良民俗調査（大城専門部員・儀間）
- 8・10 第2回文化財保護審議会開催。
- 8・19 字平良民俗調査（大城専門部員・儀間）
- 8・22 字高安の龕点検調査（高江洲調査員・大城・与那嶺・儀間）
 〃 字平良民俗調査（大城専門部員・儀間）
- 8・25 字平良民俗調査（大城専門部員・儀間）
- 8・25 読谷村立歴史民俗資料館訪問。（志田部長・天久・真栄田）
- 8・30 戦争編専門部会
- 9・3 字高安龕ゴウ祭りハーサル調査（高江洲調査員・与那嶺・儀間）。
- 9・5 字高安龕ゴウ祭前ウガミ調査（高江洲・平敷調査員、文化課）
- 9・6 字高安龕ゴウ祭調査。
- 9・10 字翁長旗頭組み立て作業調査（平敷調査員・儀間）
- 9・16 字翁長十五夜調査（高江洲調査員・儀間）
- 9・17 字翁長十五夜調査（高江洲調査員・儀間）
- 9・25 字宜保の御嶽移転調査（石附調査員・儀間）

- 9・28 南風原町史編集室訪問。新聞集成の編集についてアドバイスを受ける（儀間）。
- 10・2 人事異動により當銘美枝子主幹着任。
- 10・3 宮里真由美氏に新聞集成調査を委託。
- 10・4 沖縄県地域史協議会研修会に参加。於：粟国村（天久・儀間）～10・6。
- 10・8 字平良民俗調査（大城専門部員・儀間）
- 10・8 字翁長タキムヌメー調査（高江洲調査員）
- 10・11 戦争編専門部会
- 10・12 沖縄県博物館協会秋期研修に参加。於：宜野座村（与那嶺）
- 10・15 字翁長ウマイームヌメー調査（儀間）
- 10・17 北中城村平和文化課・沖縄国際大学仲地哲夫教授訪問。新聞集成の編集についてアドバイスを受ける。（宮里調査員・儀間）
- 10・19 字平良のシマクサラシについて聞き取り調査（儀間）。
- 10・19 沖縄県文化財愛護モデル地区発表会に参加。於：南大東村（天久）
- 10・23 字与根大城文さんより仕明帳などの古文書寄贈。
- 10・25 「手水の縁」歌碑建立起工式。
- 10・26 南風原町史編集室訪問。新聞集成編集のアドバイスを受ける。（宮里調査員・儀間）
- 11・1 県立図書館で資料収集。（宮里調査員・儀間）
- 11・4 第8回総合文化祭開催。豊見城村中央公民館（文化係）～11・5
- 11・23 「手水の縁」歌碑除幕式。
- 12・12 字翁長より民具・村芝居の小道具など寄贈。
- 12・17 沖縄県芸術祭。「洋楽公演」・於：豊見城村中央公民館
- 12・13 県史料編集室より資料借用。～12・20
- 12・21 環境予防課「健康文化都市大学」にて瀬長島案内（儀間）
- 12・23 野鳥調査。於：豊崎・与根（文化財保護審議委員・天久・文化係）
- 12・28 安仁屋政昭専門部会長来訪。戦争編について調整。仕事納め。

豊見城村史だより 第6号

発行 2001(平成13)年3月30日

編集 豊見城村教育委員会文化課
901-0232 豊見城村字伊良波392番地
(村立中央図書館内)

電話(098)856-3671

FAX(098)856-8044

文化課スタッフ

課長 天久光宏・文化係長 真栄田純一・村史係長 具志進

主幹 當銘美枝子・主査 大城達宏・与那嶺豊

囑託 儀間淳一・委託 宮里真由美